

## 小貫の廃寺 龍泉寺

常陸大宮市域には、かつて多くの寺院がありました。江戸時代前期の寛文年間（1661～1673）の時点で、常陸大宮市域には少なくとも200を超える寺院が存在したことがわかっています。しかし、水戸藩が実施した寺社改革や、明治初期の廃仏毀釈によって、寺院の多くがその姿を失いました。現在は、地名やわずかな史料、伝承からその痕跡を伺うことができますが、その実態については不明なことが多いです。今回は、その中から、小貫地区にかつて存在した龍泉寺について紹介していきます。

## ◇龍泉寺の創立

久慈山常光院龍泉寺は、小貫字寺ノ入に所在した浄土宗の寺院です。現在は共同墓地となっていますが、古い墓石や石塔群の存在から、寺院跡の痕跡がうかがえます。同地区の野上家に伝わる「久慈山常光院龍泉寺由来記」によると、天文年間（1532～1555）に貞譽圓公和尚が開山したと伝えています。小貫地区は佐竹氏の重臣・小貫氏が出自した地域であり、中世末期には同じく佐竹家臣の木村氏が「常州小貫瀧口」の知行を与えられるなど（『佐竹家臣系譜』）、古くから佐竹氏の支配下に置かれた土地でした。龍泉寺の裏山には小貫氏が築城したとされる小貫城跡が存在しており、このことから、龍泉寺の創建には佐竹氏が関与した可能性も考えられます。「開基帳」によると、寛文3年（1663）の時点で菊蓮寺（常陸太田市上宮河内）の末寺でしたが、後に常福寺（那珂市瓜連）の末寺となり、天保14年（1843）に破却され、廃寺となりました。



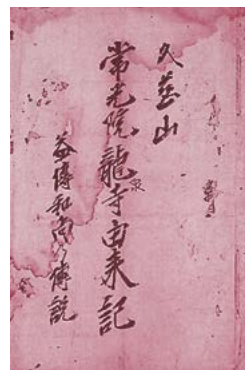
【写真1】龍泉寺跡地（小貫地区）



【写真2】江戸時代の龍泉寺絵図（当館蔵）

## ◇江戸時代の龍泉寺

「龍泉寺由来記」には、元禄10年（1697）～13年（1700）に起きた出来事が関連文書と共に記録されており、当時の状況を詳しく知ることができます。例えば、元禄12年（1699）に水戸の寺社奉行から龍泉寺に送られた文書によると、同年7月4日に徳川光圀が山方を訪れた際、2日後の7月6日に久慈川を下って天神向（小貫字天神向）の地から龍泉寺を上覧し、寺院の様子を尋ねていたことが記されているほか、元禄13年の口上書には、常福寺から龍泉寺に入った僧が天下野（常陸太田市天下野）を訪れていた光圀のもとに参上し、光圀から龍泉寺の再建と同寺の住職となることを認められた旨が記されています。当時、龍泉寺は光圀によって一度は破却を命じられましたが、地元住民の請願により再建が許されました。この記録から、光圀が龍泉寺再建の様子を気にかけていたことがうかがえます。



【写真3】久慈山常光院龍泉寺由来記（野上家文書）

現在、龍泉寺のような廃寺に関する記録は時間の経過と共に失われつつあります。現存するわずかな手がかりを元に、地域の歴史を復元する作業をこれからも継続していきます。

（高橋拓也）

■問い合わせ ■ 文書館 ☎52-0571